



■取り組んだこと■
”ここまでできる経理の合理化”

各施設において、様々な事業が展開され、それに伴い経理区分も増え、経理事務が煩雑になっていました。

そこで経理事務の手順や書類の整理の仕方を見直し、事務の省力化を図ろうと施設間で調整を図りながら調整を図りながら、システムを構築していきました。

●○グッドサービス賞受賞 喜びコメント●○

グッドサービス賞をいただきありがとうございます。

私たちは7つのキャンパスの経理事務員7名でチームをつくり、経理事務の合理化に約1年間をかけてチャレンジしました。長年やってきた経理のやり方を変えることは、容易ではありませんでした。日常の業務の多さに「なんとかならんかね?」「これ無くしたらいいんかね?」という素朴なつぶやきから「こうしたら!」「ああしよう!」と試行錯誤しながら、なんとか今回の合理化にこぎつけました。発表には、会場のみなさんにいかに経理のことを分かっていたか、と悩みました。経理の用語を使うことで、内容が硬くなり、印象がうすいのでは?と考え、「ダイエット作戦」という内容で発表させていただきました。三篠会事務チームは、これからも業務省力を考えていきますので、応援とご協力よろしくお願いします。

事務省力推進チーム 甲田 沖野祐子

参加メンバー 沖川美香、辻口鈴枝、下久保美代子、岡野いつき、西谷澄江、正岡かおり



■取り組んだこと■
”鈴が峰この1年の取り組み
～業務改善からグループケアへ”

平成16年11月の「ユニット委員会」の発足をきっかけとし、「鈴が峰」においてもグループケア実現に向けて、1時間30分から3時間まで幅をもたせ、ゆっくり楽しんでいただく食事、夜間入浴を取り入れたゆとりのある入浴、定時から随時への排泄ケアの3大介護の具体的な業務の見直しに取り組みました。

●○グッドサービス賞受賞 喜びコメント●○

今回は思いがけずグッドサービス賞をいただき恐縮しています。というのも”老健原”の開設準備に加わり、オープン翌日の発表会ということもあり、準備不足だったからです。

発表当日、唯一1人で発表したため肩身の狭い思いでした。他の施設の発表はどれもすばらしく施設一丸となって取り組んでいることがよくわかりました。それでも”特養 鈴が峰”を評価いただいたことは、私自身にとっても”鈴が峰”で、この取り組みを行ってきた職員にとっても励みになりました。自由に改善させてくださった施設長、無理難題をきいて下さった調理の方々、そして変化に常に柔軟な姿勢で対応した”鈴が峰”の介護の皆様へ感謝したいと思います。今後はベストサービス賞があるからではなく、よりよい施設にするために日々努力をしていきたいと思っています。

特別養護老人ホーム 鈴が峰 猪爪靖子(現在老健 原)

参加メンバー 特養介護

製作:ベストサービス賞通信vol.3製作委員会
大和田伸也(三篠園)青森浩之(白木の郷)正田昌義(甲田)野間久司(法人本部)

ベストサービス賞通信vol.3

社会福祉法人 三篠会
ベストサービス賞推進事務局
平成18年5月20日発行



平成18年3月2日に第2回ベストサービス賞最終選考会研修が広島プリンスホテルにて行われました。今回から2次審査を通過した13のチャレンジレポートの代表者が、各キャンパスから3名選出された審査員の前で、発表を行うというスタイルに変わりました。

ベストサービス賞と賞金30万円を受賞したのは、老人保健施設白木の郷”和”&”輪”サークルの「自分の足で歩きたい!!」です。次点のグッドサービス賞と賞金10万円を受賞したのは、法人の事務を代表した事務省力化推進チームの「ここまでできる経理の合理化」と特別養護老人ホーム鈴が峰の「鈴が峰この1年の取り組み～業務改善からグループケアへ～」となりました。受賞された皆さん、おめでとうございます。



■取り組んだこと■
”自分の足で立ちたい!歩きたい!!”

初めて「福祉QC」に取り組みました。老健でありながら、入所の長期化、ADLの低下、下肢筋力の低下が進んできました。少しでも自分の力で生活したい利用者は限りないと思います。そこで業務内で5人の入所者に関わりをもちリハビリを提供していくリハグループをつくり、日常生活に張りや意欲をもてるように改善活動しました。

●○ベストサービス賞受賞 喜びコメント●○

今回は、日々の業務に追われる中で、1人の利用者のケアプランがきっかけとなり、立ち上がりリハビリを続けていくうちに参加者も徐々に増え、日常生活に張りや意欲が見えはじめました。そのことは職員にとってもやりがいとなり、チャレンジレポートを通してより一層、充実させていきたいと、このテーマに取り組むことにしました。

初めて耳にした「福祉QC」に取り組み、正直とても不安でしたが、業務厳しい中でも、チームリーダーが中心となって協力しあいました。無事チャレンジレポートを提出することができたときには、みんな疲労の中にも完成させたという自信が満ち溢れていました。最終的にベストサービス賞という評価を頂き、全員で充実感と喜びを分かち合え大変うれしく思いました。今も利用者さんたちはこのリハビリのひとときを楽しみに待っていてくださいます。課題も多少ありますが、来年度のベストサービス賞に向けて、日々業務を見直ししながら、”笑顔をもっと”に職員一丸となり、様々な取り組みにチャレンジしていきたいと思っています。

老人保健施設 白木の郷 ”和”&”輪”サークル 児玉恵美・岡野崇・河野美鈴
参加メンバー 小島邦江、本川真由美、向井京子、上田真理、中尾諄子、溝下真二、福本昌彦

最終選考会ルール

今回初めて審査員を各施設から募集をして最終選考会を行いました。そのルールは…

- ◎ 2次審査で選ばれた13のチャレンジレポートの代表にその取り組み内容を発表してもらいます。発表は10分間、パワーポイントなどのツールは自由です。
- ◎ 各キャンパスから3名ずつ参加してもらい、1人の審査員が3レポートを選んで投票します。その投票数が一番高い順から「ベストサービス賞」「グッドサービス賞」「ナイス賞」を決定します。審査員以外には投票権はありません。施設の代表者が審査・投票することで、選考の透明性高め、みんなで参加できる企画をこころがけました。

入賞喜びのコメント ナイス賞1万円

桜寮4F食堂化により、入所者の安全性とADLの低下予防を考える
 養護老人ホーム 三篠園 高橋恭子

4Fロビーの食堂にふみきったのはADL低下により居室とは別棟にある食堂まで行くことが困難となってきている入所者がみられるようになり、拒食する実態もあり、見直しの必要性を感じたからです。今後も入所者の方にできるだけ長く養護での生活を続けていただけるようスタッフ一同協力し、頑張っていきたいと思っております。

参加メンバー 井上恭子、池岡典子、杉川寛子、木本累梨子、増阪康司、市明静代、吉武亮子



ターミナルケアとポジティブケアへの取り組み
 特別養護老人ホーム 三篠園 第1特養部 山縣まゆみ

惜しくも??賞金を取り逃がしましたが、大変貴重な体験をさせていただきました。他施設の発表を聞くのは良い刺激であり、参考となりました。事前準備の不足、発表の仕方工夫、分かり易いデータとして表すことなど、検討すべき課題が見え、是非次回につなげます。チーム力、他部署との連携、発展性、継続性のあるものを来年もみんなで協力し合い、チャレンジしたいと思っております。

参加メンバー 第1特養部



「残菜の量を少なくする」
 白木の郷 調理部 濱田勝

今回自分たちにとって初めてのQC活動であり、手探り状態からのサークル活動ではありましたが、メンバー全員がまとまり、責任をもって活動することができました。今回はナイス賞に留まっていまいましたが、今回の参加経験をふまえ、次回は更にレポートの完成度を高めて、ベストサービス賞に再度挑戦したいと思っております。

参加メンバー 増田享子、坂川政子、片山敏恵、長畑美樹子、松本幸美、橋本知子、永井法恵、横町貴美、鳴戸昭子、堀恵子



デイサービスの知恵袋
 デイサービスセンター甲田 伊藤宏子

以前はお客様扱いするあまり過剰なサービスとなり、利用者のもつ能力を十分に活かすことができておりませんでした。これでは利用者の自立支援につながらないとの思いから、職員一人ひとりが問題意識をもち、何か工夫できないかと考えるようになりました。まだまだ小さな知恵袋ですが、ご利用者の方に「今日も利用してよかった」と喜んでいただけるように継続していきます。

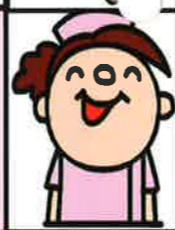
参加メンバー 岡幸江、狩山友香、坂井反子、掛田浄子、木村美鈴、奥本治男、福永恵子



エビデンスに基づいたA君の導尿時の処置変更により皮膚トラブルが改善した症例
 重症心身障害児施設 鈴が峰 平田邦子

三篠会ベストサービス賞選考会に参加させて頂き、またナイス賞ありがとうございました。他部署のチャレンジを聴かせていただき、「何かみんなで考えよう」「今より少しでもよりよいケアをしよう、考えよう」としている職員がたくさんいて、平成18年度は「鈴が峰」でも介護と看護が「みんなで何かチャレンジできたらいいなー!!」と思えました。

参加メンバー 重症児担当ナース



夏祭りを見直す
 身体障害者療養施設 仁方 清水郁美

節目である5回目の夏祭りで利用者・職員みんなで楽しめるようにしていきたいと業務内容を見直しました。発表する機会があったことで、取り組んだ内容の振り返りが出来てよかったです。発表を終えて、とても心地よい充実感が残っています。この経験を今後の業務に活かしていきたいと考えています。

参加メンバー 山根修悟、松村裕介、折本孝一、草川恵美、中村秀人、村上雅美、井口真紀、濱本真弓、面本純登、田尻謙治



「手が動いた、心も動いた。」～利用者と園児の交流から～
 ゆたか園 調理部 増田智美

今回、中山いづみの園児を交え、「物づくりから出来上がり」までの一環を入所者・園児・職員との協同で収穫祭を行いました。取り組みのふりかえりとして、楽しかったことや喜びや感動を心に深く刻むことができました。今回協力してくださった中山いづみ保育園、ゆたか園のスタッフと力を合わせてできたことを本当にうれしく思います。

参加メンバー 調理部職員、介護職員、特養利用者、中山いづみ保育園児



「キャンパス内を花で飾ろう」～園芸クラブ～
 喜生園・救護院 高田真知子

今回ナイス賞を受賞でき、職員一同喜んでおります。今後の自信につながり、励みになりました。今回は園芸福祉を通して、利用者の生きがいを見出せるように取り組みました。これからは利用者の喜ぶ顔を想像し、新たなプランに挑戦していくつもりです。ありがとうございました。

参加メンバー 救護院 介護部全員、喜生園 介護部全員



災害・緊急時に強い施設作りを目指して
 重症心身障害児施設ソレイユ川崎 古村恵理子

このたびはナイス賞にお選びいただき、ありがとうございました。大変光栄に思いますとともにケアの現場に携わり、利用者の皆さまとともに在ることへの責任感を改めて強く実感しております。この受賞を励みに利用者の皆さまにとってより安全で快適な生活環境を提供していけますよう職員一丸となって努力してまいりたいと思っております。

参加メンバー 酒井菜穂、江草沙織、関茂元



「ここに来てよかった」～園庭開放編～
 いづみ保育園 久保仁美

このたびは最終選考会の場で発表させていただき、私だけでなく、いづみ園にとっても良い経験となりました。この取り組みを行ううちに園側だけでなく、利用者側の立場を考える大切さに気づき、園庭開放の意義を考える機会にもなりました。施設同士の一致団結の場といえるベストサービス賞がこれからも続きますよう願っております。

参加メンバー いづみ保育園保育士



推進事務局より

◆◆◆推進事務局長からのコメント◆◆◆

本年度ベストサービスのチャレンジレポートは昨年よりもさらにレベルアップした内容が多く選考に大変苦勞しましたが、「初めての取り組み」「継続した取り組み」「発展的な取り組み」「チームでの取り組み」という点を重視してきました。様々な取り組みがある中、「施設ですぐに出来ること」「アレンジすれば出来ること」「周到な準備が必要なこと」などそれぞれ状況は異なるではしょうが、大事なことは発表だけではなく、他の施設の取り組みを参考に謙虚な心です。そして、その心はご利用者様へのサービスの中に必ず表れてきます。今回のベストサービスに関わった取り組みも、そうでない取り組みも、全てが「この施設に来て良かった」と思っていたくためには必要です。ノミネートされた方々や賞を獲得された方々に改めて拍手を贈るとともに、今後とも日々の精進を心がけていきましょう。

三篠園 園長 酒井亮介

◆◆◆事務局より◆◆◆

「今年は発表しないんですか？」と会議の席で言った数秒後に大きな後悔が襲ってきました。「じゃ、やりましょう」ということになり、ホテルでの最終選考会研修の企画がドーンと乗っかってきて泣きをみました。広島プリンスホテルに会場が決まり、自分で企画・打ち合わせまでしといて、当日会場を見て驚きました。豪華でした。発表の方はもっと驚いたことでしょう。しかし、やって良かったです。発表する機会を設けて審査員と参加を自由にしたことにより、現場の生のがんばりを聴く機会となり、ベストサービス賞がより身近なものに感じていただけたみたいです。

今年は福祉QCをやった白木の郷がベストというのも嬉しかったですけど、昨年よりもこの施設もレベルがグンッと上がったことが、何よりも良かったです。来年が楽しみです。次回もベストサービス賞が三篠会のサービス向上と業務改善の機会になれるように応援します。

推進事務局 野間久司

今年のベストサービスは

今年のチャレンジレポートの募集を開始します。今年も前年度と同様にレポートは12月末の締め切りとなります。ベストサービス賞30万円1組、グッドサービス賞10万円2組、ナイス賞1万円10組です。その他、表彰内容・選考方法・最終選考会研修など、大きな変更事項はありません。詳しくはキャンパス内の推進委員にご確認ください。

7月にベストサービス賞研修を企画中です。前回優秀レポートを紹介しながら、今年レポート作成のヒントとなる実践的な研修にする予定です。奮ってご参加ください。